

令和5年度

美馬市立脇町中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人一台のタブレット端末を活用した個別最適化の学習と協働的な学びの実践
- おどろきと発見のある授業づくりを通じた主体的・対話的で深い学びの実現

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
松原 梢	校長 小田 直人 教務主任 根東 英司 2学年主任 土井 都善
	教頭 南郷 孝嘉 1学年主任 川西まゆみ 3学年主任 都築 昌代

校長

小田 直人

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、さまざまな機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習態度で授業に取り組み、課題や提出物の期限を守る生徒が多い。 ○ICT機器を利用し、基礎・基本の習得に向けて意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 ●知識・技能の定着が十分でない生徒がいる。 ●他の人の意見を取り入れたり、身につけた知識を関連付けながらまとめたりして、学びを深めることに課題がある。	・授業の目標を理解し、見通しを持って学び、学習内容の理解度や習得度がわかる。 ・家庭学習を充実させ、基礎的・基本的な知識や技能を他の学習や生活の場面においても活用することができる。 ・課題の解決をめざし、粘り強く課題に取り組むことができる。	・生徒の興味・関心を喚起させるような授業のため、明確な説明や指示・発問の仕方を工夫する。 ・授業の終わりに目標に沿った振り返りを行う。 ・他学年や他教科の教員が相互に授業参観を行い、互いに学びあう。 ・タブレット端末等を活用して朝学習の時間や家庭学習で基礎的・基本的な内容の復習を行い、確実な定着を図る。	・基礎的・基本的な内容の確実な習得のため、プリントやタブレット端末等を用いて繰り返し解いて定着を徹底させる。 ・授業参観を通して学んだことを自らの授業に生かし、生徒の興味・関心を喚起させる授業づくりを図る。	・教科間の差はあるものの、タブレット端末等を積極的に活用することで、基礎的・基本的な内容の習得に一定の効果が見られた。 ・デジタル教科書や学習支援アプリを積極的に活用し、多くの教員が生徒の興味・関心を喚起させるような授業実践をした。 ・相互に授業参観をすることによって、自らの授業について振り返り、改善につなげることができた。	・家庭学習が効果的なものになるよう、課題の量や内容を見直すとともに、家庭との連携を密にする。 ・学習支援アプリの効果的な活用法を教員が学び、共有し、授業づくりに活用する。 ・相互の授業参観を継続し、生徒の興味・関心を喚起させる授業改善のため、互いに学び合うことを実践する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えをまとめたり発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○タブレット端末を利用して自らの考えを整理したり表現したりすることに意欲的に取り組む生徒が多い。 ●課題に応じて必要な情報等を取捨選択したり、根拠を明らかにして自分の考えを相手に伝えるようにまとめたりすることに課題がある。	・授業中の課題等に対して、話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の場面において、適切な言語活動を行い、自分の考えを表現することができる。 ・調べた内容を整理し、他者にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。	・学級担任や教科担任を中心に、生徒が安心して自己表現ができる学級づくりを積極的に行う。 ・ICT機器やホワイトボードなどを活用し、話す・書くなどの言語活動を単元ごとを実施する。 ・ペア・ワークやグループ活動などを取り入れた学習活動を行い、自分の意見を表現する機会を増やす。 ・調べたことや考えをわかりやすくまとめ、発表する場面を増やす。	・自分の意見や考えを書いたり話したりするだけでなく、他の意見を参考にしながら付け足したり書き直したりして表現を工夫して書くようにする。 ・プレゼンテーションソフトやアンケートフォームを活用して、効率よく情報を整理し、わかりやすく他者に伝える工夫を指導する。	・タブレット端末を効果的に活用し、多くの教科で生徒が自分の意見や考えを表現する活動を行うことができた。 ・教科の特性を生かし、ICT機器やホワイトボードなどを活用して自分の考えを深める活動を行うことができた。 ・調べたことや考えたことをわかりやすく他者に伝える工夫について指導し、プレゼンテーションをよりよいものにする事ができた。	・デジタルとアナログの特性を生かし、場面に応じた表現、適切な活用について検討する。 ・自分の意見を単に発表するだけでなく、他者の意見を参考にしながら自分の意見を再構成したり書き直したりする場面を取り入れ、考えを深める活動を行う。 ・プレゼンテーションの後に質疑応答を取り入れるなど、授業づくりに関して思考力や表現力をより深める工夫を実践する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に前向きに参加し、定期テストに向けて計画的に課題に取り組むことができる。 ○タブレット端末を利用した学習活動に意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 ●不得意な教科の学習内容に対して、自分で計画を立てて学習を進めることに課題がある。 ●学習内容が定着するように勉強の工夫をしたり、粘り強く学習を続けたりしようとする態度はまだ十分に育っていない。	・学ぶ意欲をもち、わかる喜びを実感しながら、目標に向け計画を立てたり、達成のための見通しをもって粘り強く取り組んだりすることができる。 ・課題の解決に向けて試行錯誤しながら解決方法を見つけ出し、達成感をもつことができる。	・生徒の実態を踏まえ、個に応じた指導の工夫、助言、指導に努める。 ・タブレット端末を利用した学習の記録を活用し、適切な指導と助言を行う。 ・学校や家庭での学習を充実させるため、タブレット端末を効果的に活用する。 ・自らの課題について考えさせるとともに、その取組状況に応じて助言する。	・学習計画が十分達成できたか振り返る場面を取り入れ、計画を見直したり修正したりするようにする。 ・「家庭学習の友」を活用し、目標をもって計画的に学習する習慣作りをサポートする。	・学級担任を中心に、教員が一人一人の実態に応じて適切な声かけを行うことにより、多くの生徒が与えられた課題を仕上げる事ができた。 ・タブレット端末を活用し、互いに学び合う場を設定したり家庭学習の充実につなげたりすることができた。	・定期テスト前に限らず、普段から見通しをもった学習計画を立てる機会をつくる。 ・タブレット端末の特性を生かし双方向の学習を工夫して、自ら学ぶ意欲や喜びを実感させるための取組を検討する。 ・「授業の準備をして2分前着席」「話をしている人に注目」など、学習に取り組む上で望ましい授業マナーを励行し、落ち着いて学習に取り組める環境づくりを続ける。

令和5年度 学力向上ロードマップ

